

令和 1 年 9 月 13 日

## 会員各位 会員アンケートご協力のお願い

特定非営利活動法人サステナビリティ日本フォーラム 事務局

会員各位

平素より、当会の運営にご協力いただき誠にありがとうございます。当会は、サステナビリティおよび CSR（企業の社会的責任）にご関心のある株式公開企業や各種団体の関係者様をはじめ多様なステークホルダーの皆様と連携をしながら持続可能な社会実現に貢献するべく、2002 年に設立しました。以来、定期開催している CSR 基礎講座を含め、これまで 260 回の勉強会やシンポジウム、ラウンドテーブル等（延べ参加者総数:5,991 名）、多岐にわたる活動を行ってまいりました。

<定款の目的に基づき、これまでの主な取組の変遷を世界の動向と合わせてまとめました>↓  
<https://www.sustainability-fj.org/susfjwp/wp-content/uploads/2019/09/352adc3e3028537ad8484c5ad35bf3d5.pdf>

当会は、今年で創立 17 周年を迎え 20 周年も近づいております。今後も皆様のお役に立ち、持続可能な社会実現に貢献する取組を行うために、以下のアンケートをお願いすることとなりました。お手数をおかけいたしますが、よろしければ、忌憚のないご回答をいただきたく、ご協力をお願いする次第です。

アンケート結果を元に今後、より良い取組・運営に努めてまいります。

サステナビリティ日本フォーラム (Sus-FJ) 令和元年度 会員様アンケート

Q1：最も役に立っていると感じの当会の取組について、次のいずれか近いものをお答えください

- A1：(1) 課題や具体的な取組の共有…ラウンドテーブル・研究会、勉強会など  
(2) 多様な参加者との情報交換・関係づくり…勉強会、役員懇談会、運営委員会など  
(3) サステナビリティ・CSRの最新情報の入手…勉強会、メールマガジンなど  
(4) 持続可能な社会実現に向けた気運醸成…基準づくり、評価・表彰制度への関与  
(5) 異動に伴う新任教育…CSR基礎講座、役員・部長(室長)のためのCSR講座

Q2：過去、良かった取組(共催・協力含む)について、次の中からお選びください(複数回答可) ※形式別に代表的なものを挙げています

- A2：(1) 勉強会  
(1) -1 [GRIスタンダードを読む会](#) (2017年、全3回)  
(1) -2 シリーズ勉強会「2030~2050年のサステナビリティ社会を追求する」  
(2016年、全3回)  
(1) -3 シリーズ勉強会「エンゲージメントでサステナビリティの裾野を広げる」  
(2015年、全5回)  
(2) ラウンドテーブル・研究会  
(2) -1 TCFDコンパス研究会 (2019年、全4回)  
(2) -2 NHKスペシャル「激変する世界ビジネス  
脱炭素革命の衝撃」について語る会 (2018年)  
(2) -3 [エシカル市場拡大のためのラウンドテーブル「\(オーガニックコットン\) 5%  
じゃ、ダメですか？」](#) (2014年、全4回)  
(3) シンポジウム  
(3) -1 気候関連財務開示タスクフォースTCFDの最終報告書に関するシンポジウム  
(2018年)  
(3) -2 GRIスタンダード日本語版お披露目シンポジウム「サステナビリティと  
情報開示の可能性のその先へ」(2017年)  
(3) -3 EU会計指令改訂と非財務情報開示  
「中長期的な成長戦略・ESGにどう対応するか」(2015年)  
(4) エコツアー  
(4) -1 福島県南相馬市 震災復興の現状とイノベーションコースト構想について現  
地を訪ね、語る会 (2018年)  
(4) -2 熊本県上益城郡山都町 震災後の棚田再生プロジェクトに携わり、有機農業  
が盛んな持続可能な町として、町の今後を考える会 (2017年)  
(4) -3 カカオ農家の収入向上とアグロフォレストリーの両輪で、あるべきエンゲ  
ージメントの姿を考える会 インドネシアスラウェシ島 (2016年)  
(5) その他・翻訳や表彰など  
(5) -1 GRIスタンダード 項目別スタンダード「303：水と廃水」

「403：労働安全衛生」の翻訳（2018年）

(5) -2 [2050年のCO2削減目標をコミットした企業「ベスト長期目標賞」の企画・表彰](#)（2015年、低炭素杯2016・長期目標特別審査会）

(5) -3 「ビジネスと人権に関する指導原則：国際連合『保護、尊重及び救済』  
枠組実施のために」の翻訳（2011年）

(6) この中に入らない場合は、別添資料のこれまでの取組変遷の表なども参考にしていた  
だき下記に具体名をお書きください

→ [具体名： ]

Q3：A1でお答えいただいた取組に関する当会の活動の程度についてお答えください

A3：(1) 適切

(2) 概ね適切

(3) 不十分→ [改善点： ]

Q4：GRIやISO26000の普及もあり、2010年頃の日本において「差別」でしか捉えられて  
いなかった「人権課題」も今や環境、社会、ガバナンスのなかでグローバル共通の課題とし  
て深く理解されるまでになりました。今後は、新出の課題を共有するという段階から事業展  
開する場所や事業内容により個別別にどう課題を捉え・どのように取り組むかが問われる  
段階に入っていくと考えられます。そこで重要なテーマとして取り上げた中からその後の  
社会の動向、企業の具体的な取組がどうなっているのか、追跡調査を行い、取組へのヒント  
となる情報をお届けしたいと考えます（Q社やN社のように多くの情報を提供する情報プ  
ロバイダとの差別化を図るため）。関心の高いテーマについてご回答ください

A4：[自由記述： ]

Q5：気候関連ではあるものの、複数の可能性あるシナリオを策定し、分析することを唱え  
るTCFDに当会は関心を寄せています。中長期ビジョンを掲げる企業にとって不確実性が  
増す世の中においてそれが耐えうるものなのかの検証と中長期ビジョンに向けたロードマ  
ップを策定するのにTCFDは有用であると考えます。TCFDにどう対応したいとお考えで  
すか、次のいずれか近いものをお答えください

A5：(1) TCFDを勉強したい

(2) TCFDも含めた長期ビジョンづくりに関心がある

(3) TCFD/SDGs/ESG対応を含めた会社の長期ビジョンづくりに関心がある

(4) その他→ [自由記述： ]

Q6：今後、より内容の充実や拡大が期待される取組について、次のいずれか近いものをお  
答えください

A6：(1) 課題や具体的な取組を共有するための場の創出

(2) 多様な参加者との情報交換・関係づくりのための場の創出

(3) 持続可能な社会実現を果たすための気運醸成

(4) サステナビリティ・CSRの最新情報のお届け

(5) 少人数、個社別の教育・研修

Q7：その他、当会に関し、ご希望・ご意見等ありましたら率直にお聞かせください  
[ ]

Q8：ご回答いただいた内容についてさらにヒアリングさせていただき、今後の運営に役立  
てたいと考えています。よろしければ、ご所属・お名前をご明記ください（任意）

お名前：[ ]

ご所属：[ ]

お忙しい中、アンケートへご協力いただき誠にありがとうございました。

（ご回答いただいた内容は、企業・個人が特定できない形で一般に広く公開し、当会参加の  
メリットを明示して取組の輪を広げることも検討しています）

これからもサステナビリティ日本フォーラムは、サステナビリティ/CSR の世界の動向を見  
据え、半歩先かつ最もバランスのとれた知見/情報を会員各位にご提供すべく邁進してまい  
ります。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。